

西新井税務署長賞

「税の希望、私たちの希望」

足立区立 第七中学校

三年 濱田 寿

「税金」。この話題で話をするとおそらく多くの人が「最初は悪いイメージをもっていたが調べてみると意外と生活に必要なだった。」と言うだろう。しかし私は生きていく中で税金に不満をもったことがない。正確に言えば何の感情も抱かない。なぜなら、決められた金額の税を納めるというのが自分の中の通常であり、「税金」の存在が当たり前だと思うからだ。これは良いこととも言えるが視点を変えると、ただ税の知識が全くない人にもなり得る。そこで税について主に二つ詳しく調べてみることにした。

一つ目は税金の意味。税金という存在自体は国民の豊かな生活を実現するための活動の財源となっているものだが、なぜ下がらず上がっていくのだろうか。ずっと政府の問題だと思っていたけれどそれは今の社会に問題があった。高齢化である。日本はものすごく速いスピードで高齢化が進んでいるため、社会保障の費用は増え続け、税金に頼る分も増えるのだ。だから私たち若者は、もっと積極的に政治に関心をもち、全ての年代の人々が希望に応じて意欲・能力をいかして活躍できる社会を目指すべきだと思った。

二つ目は税の使い道と関わり。税の使い道と聞いてパツと思いつかぶのは医療と教育、身近なものだと給食の無償化だ。しかし深掘りしていくと、なんとロケット開発という意外な部分にも使

われていることがわかった。今の私たちに直結して役立つことはないが、世界の発展に繋がる分野の「科学」という面では私たちの生活をどこかで絶対に支えていると思う。また、この表側にはないような税を私たちが学び、信じることも今の世の中で大切なことだと思う。

何十億人もいる人々が全員税を良く思い、全員幸せに心地よく暮らすのは不可能だろう。この瞬間苦しんでいる人々もいるかもしれない。だが、この作文を通して将来の日本を支えていくであろう私たち中学生が少しでも税に触れ、課題に向き合うことで日本の未来の貴重な希望が増えていくのではないだろうか。その希望をもつ人々が輝く世の中になれば良いと私は思う。